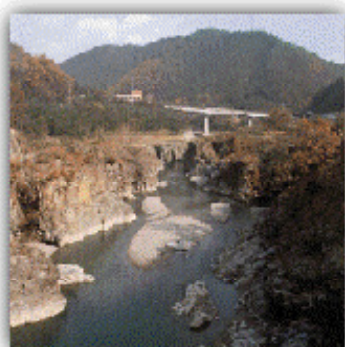
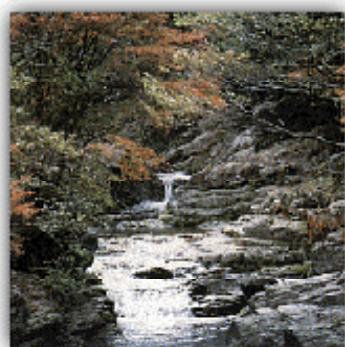


平成21年度

第31回全日本中学生水の作文コンクール

# 奈良県大会 入賞作文集



## 奈良県

後援：奈良県教育委員会、奈良県中学校長会

## 「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、「水の週間」行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的として昭和54年から実施されており、今年度で第31回目となりました。

第31回「全日本中学生水の作文コンクール」は、次の通り実施されました。

募集期間	: 平成21年1月5日～5月15日
応募作品（県内）	: 6校 269編
応募作品（全国）	: 344校 16, 462編
地方審査	: 平成21年6月9日 優秀賞3編、入選10編を選定。 (優秀賞受賞作品を中央大会に応募)
中央審査	: 平成21年7月9日 最優秀賞1編、優秀賞5編、入選26編を選定。

## 「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

優秀賞

水不足に立ち向かう  
こけのダム  
受け継いでいく水

山添村立山添中学校  
奈良市立月ヶ瀬中学校  
奈良市立都祁中学校

三年  
三年  
三年

中窪 真史  
藤原 弘士  
宮久保 晴加

6 4 2

入選

「水没した地域」  
山と水  
農業と水  
水に感謝を  
感謝するべき水  
「水と私の町」  
大切な水  
未来に水色の贈り物  
水よ、ありがとう  
水の事実

王寺町立王寺中学校  
黒滝村立黒滝中学校  
山添村立山添中学校  
山添村立山添中学校  
山添村立山添中学校  
王寺町立王寺中学校  
山添村立山添中学校  
山添村立山添中学校  
山添村立山添中学校  
曾爾村立曾爾中学校

一年  
二年  
三年  
一年  
一年  
三年  
一年  
三年  
二年  
三年

岩切 紗香  
植田 倫子  
奥中 俊寿  
尾谷 莉奈  
田中 里奈  
榎屋 菜摘  
中矢 知沙  
山本 みか  
畑中 友里  
橋詰 奈央

10 12 14 16 18 20 22 24 26 28

※ 学校名、氏名により五十音順に掲載しています。

優  
秀  
賞

## 水不足問題に立ち向かう

山添村立山添中学校 三年

中窪 真史

「これって一時しのぎと違うん。」

母とニュースを見ていたとき、口から出た言葉だ。そのニュースとは、海水の淡水化についての内容だった。なぜこんな言葉が出たのか。「海水から真水をつくっても、水不足のそもそもの原因である地球温暖化による異常気象の改善に全くつながっていないのでは。」と思ったからである。海水の淡水化に疑問を持った僕は、早速インターネットでそれについて調べた。

海水の淡水化には主に「多段フラッシュ」と「逆浸透法」の二種類がある。「多段フラッシュ」とは海水を熱して蒸発（フラッシュ）させ、再び冷やして真水にする方式である。一方「逆浸透法」は海水に圧力を加えて、真水は通すが塩分は通さない「半透膜」と呼

ばれる特殊な膜に通し、淡水を取り出す方式である。前者はフラッシュさせる際に使用するエネルギーが大量に必要で、後者は開発や整備にコストがかかるという問題をかかえている。いずれも経済的に豊かで、水源地や雨がとぼしく、海洋に面している中東の産油諸国で多く採用されている。

中東などの、気候上どうしても水がたりなくなってしまう地域では、海水の淡水化は必要だろう。しかし、もともと水がある程度あるのに、無駄使いから水不足になっている場合は、これらの方法を導入しても果たして良いのだろうか。

僕の祖母は、子供のころとても水を大切にしていたという。水道がない時代、水は井戸や川からくみあげるしかなかった。風呂に入

るには、風呂がまと井戸とを何度も往復して  
すぐ大変だったという。農業用水や洗濯、  
食器を洗うのにも、全て井戸から水をくんで  
こなければならなかったのだ。このように水  
を手に入れることが大変困難だったため、水  
の存在は貴重でありがたいものだった。しか  
し今の時代、水道が整備され、水は簡単に手  
に入れることが出来るようになった。水が容  
易に手に入れることができるようになったた  
め、その貴重さやありがたさがどんどん失わ  
れていつているように思う。その上海水の淡  
水化が普及すれば、ますます水は大切にされ  
なくなるだろう。

日本の飲食店では、店に入ると必ず最初に  
水が出される。しかしこんなことをするのは  
世界的にみても珍しいそうだ。水が豊富な日  
本であるからこそ、こんなことができるのだ。  
世界には、本当に水がなくて困っている人  
たちがいる。しかし私たちは、水があるのに  
それらが無駄使いすることによって、水不足  
問題を引き起こしている。この問題の解決に  
は、さらに水を得ようとするよりも、無駄に

使っている水をなくすことの方が大事だと僕  
は思う。日本という国は水にめぐまれている。  
そしてその水はあたり前の存在ではなく、本  
当は貴重で大切なものであることを理解しな  
ければならない。それこそが水不足問題に立  
ち向かう第一歩であると思う。

## こけのダム

奈良市立月ヶ瀬中学校 三年

藤原 弘士

去年、僕は屋久島に行きました。屋久島の森を歩きました。普段味わえない大自然を体験しました。見られない植物や大木、こけなどいろいろな自然のを見ました。

しかし、雨がよくふり歩くのが大変でした。屋久島のガイドブックにも一ヶ月に三十五日雨がふるとかかれています。それほど、屋久島は雨が多くふります。

しかし、屋久島はなぜ、洪水がおこりにくいのでしょうか。しかも、屋久島は土が少なく地下にあまり水をためることができないそうです。

実は、洪水をふせいでいるのはこけでした。なぜ、こけが洪水をふせいでいるのでしょうか。

屋久島には土が少なく、岩が森の中にござ

ろごろあります。その岩にはえているのが、こけです。また、国語辞典で調べてみると、こう書いてありました。

・地衣類などの隠花植物の俗称。古木・岩石・湿地などに生じ、花が咲かない。

たしかに、ふり返ってみるとこけが様々な所に生えていました。古木は古い木なので、屋久島には千年をこえる木々がたくさんあり、こけが生えやすいです。また、岩石はさつきも言いましたが、屋久島には、たくさん岩石があり、こけが生えやすいです。湿地は、屋久島には雨がたくさんふっていて、しめった平地となり、こけが生えやすいです。

では、なぜ、この多くのこけが洪水をふせいでいるのでしょうか。

こけは、湿地が好きです。そして、よく雨

がふる屋久島に生えて水をすいとっています。いわば、こけはスポンジです。こけは多くの水をすいとってくれます。しばらくして、こけは、水をだしていきますが、洪水にはなりません。いっかい、こけが水をためることによって水は洪水しません。ダムがない屋久島ですが、こけがダムの役割をはたしています。だから、屋久島は洪水がおこりにくくなっている環境なのです。

日本本土はどうでしょうか。土地によっては、ダムがなく、地下で水をためて洪水がおこりにくくなっている土地もあります。しかし、今の日本には、たくさんのダムがあります。

なぜ、日本にたくさんのダムがあるのでしょうか。それは、洪水や渇水しないように作られています。また、発電や水道として使われています。こんながいいことがあるなら、どんどん造ればいいじゃないか、と思いませんか。

しかし、水をためているということは、水がよごれたりしてしまいます。また、きれいな

な川にしか住まない魚が住めなくなります。また、ダムは水がたまるので、水がたまる高さにはない家は、引っこししなければいけません。

このように、ダムは良い所もあり、悪い所もあります。ダムを造ることは、人を豊かにして、自然をこわすということです。

屋久島のコケのダムのように自然の力で洪水をふせげることは良いです。また、環境にやさしいので良いです。

これから、屋久島の自然をみんなで守っていくことが大切です。そして、日本中のダムが環境に良い、屋久島のコケのダムのようになることをいっています。



## 受け継いでいく水

奈良市立都祁中学校 三年

宮久保 晴加

四月、通学路の両側に、しろかきの終わつた田んぼが広がる。水面は、木々の青葉や山桜、周囲の家々を鏡のようにくつきりと映し出し、朝日が当たれば、きらきらと輝く。わたしは、さわやかな気分で自転車をこぐ。

「この辺は、『友田白石碁盤のおもて、なぜに裏毛が取れぬやら。』と昔から言うんや。」

と祖父は言う。水田の広がる風景は、確かに碁盤のように平らだ。標高四百メートルの涼しい高原なので、二毛作は無理だが、空気も澄み、水もきれいで、昔から米作りが盛んだ。お米はおいしく、町からわざわざ買いに来る人もいるくらいだ。

ところで、この米作りはいつ頃始まったのだろうか。祖父はこう言った。

「江戸時代に新田開発をしたときに、一緒に

大きなため池も作ったそうや。大池のそばの石碑に掘ってあるから見てき。」

保育所からの帰りに見る大池を、初め、わたしは海だと思っていた。冬には鴨が泳ぎ、祖父が子供の頃は、凍った池の上でスケートができたそうだ。自転車で見に行くと、草むらの中に石碑があった。

「寛永五年藤堂藩城和奉行加納藤左衛門直成の差図により友田村庄屋三右衛門以下村人協力一致この大溜池を築造す」、築造三百五十年記念に祖先の偉業をたたえて建造す」

「寛永」、どこかで見た文字だと思い、歴史の教科書を開いた。すると、江戸の三代将軍、徳川家光の時代で、島原天草一揆が起こつたり、寛永通宝が作られたりした時だと分かった。ブルドーザーやショベルカーなどの重機もない大昔だ。「村人協力一致」とあ

るから、村人が大勢集まって、くわやすきを使って掘ったのだろうか。一体どれくらいの年月がかかったのだろうか。江戸時代には何度も干ばつや日照りによる飢きんが起こったと習った。米作りには大量の水が必要だ。きつと村の人たちは安定した農業用水を確保するため心を合わせ、「協力一致」したのだろうか。今から四百年近い昔の風景が目に浮かぶように、祖先がとても身近に感じられた。

この辺りでは、ゴールデンウィークはレジヤーのための休暇ではなく、一家総出で田植えをする期間だ。遠くに住んでいる人もわざわざ帰ってきて手伝うので、田んぼはとてみにぎやかだ。わたしの家も、祖父母だけでなく、父母や兄たちも手伝う。わたしも部活動から返るとすぐ、体操服のまま苗を育てたトレイを水路で洗う。今年の田植えも無事終わった。祖先の苦労があったからこそ、水不足の時も農業用水が確保され、今まで米作りを続けてこられたのだとつくづく思う。

数年前のことだが、この大池に工場排水が流れ込むかもしれないと聞いて、村の人々が

一丸となって抗議し、防ぐことができたということがある。一度汚染された水はなかなか元には戻らない。祖父も、水が汚染されたらお米が作れなくなると、必死だった。石碑に刻まれることはないけれど、村人が「協力一致」して、この大池を守ったのだ。

わたしは、石碑の周りに草がぼうぼうと生えているのが気になった。石碑が建てられてもう四十年近く。どれだけの人がこの石碑のことを知っているのだろうか。わたしも祖父に聞くまで、全く知らなかった。でも、知ってからは水と農業を守った祖先の多大な苦労を忘れず、これからも水田の広がる風景を守らなければならぬと思うようになった。

石碑に刻まれた「協力一致」という言葉。これこそが今、すべての人類に必要な言葉なのではないだろうか。水は地球上を循環し、地球に住むすべての生き物の命を支えている。自分さえよければと思うのではなく、世界中で「協力一致」の精神を持ち、限られたみんなの水を無駄遣いせず、汚さず、未来へと受け継いでいかなければならないのだ。

入

選

## 「水没した地域」

私のおばあちゃんは吉野に住んでいます。川上村には、大滝ダムがあります。お母さんが学んだ中学校・高校の校舎はないそうです。中学校は違う場所に新しく建てられ、高校があった場所には小学校が建てられています。

ダムを作るためには、色々な問題がありました。ダムの底にしずんでしまう地域の人達への説明・理解・住む家の問題、一つ一つ解決していかなければなりません。何度も何度も話し合いをもち、やっと理解を得られダム建設にこぎつけたそうです。中には村を出て行く人もいましたが、新しい場所に家を建て今も住んでいる人もいます。何年もかけて建設されて来た大滝ダムが完成しました。

王寺町立王寺中学校 一年

岩切 紗香

「一度ためしにダムに水をためよう。と言ふことになり水をためました。」

しかし、そこでまた問題が発生したそうです。それは、他の地域にヒビ割れや地すべりの危険がでてきました。すぐに水をためるのをやめ、専門家の人や関係者の方達の調査がはじまったそうです。建設する前にも何度となく調査をしてきたはずだと思ふけど、なぜそんな事がおこるのだろうか？その地域の人達は、ダムの底にしずまないもののヒビ割れや地すべりの危険があるため結局そこに住めなくなり、新しい場所に家を建て住むことになりました。この事は以前大きくニュースや新聞でも取り上げられました。私達が生活していく上でかかせない水、大切な資源を有効に活用出来るように建設され

たダムですが、昔から住んでいた家を手ばな  
さなければいけない地域の人はつらいもの  
があつただろうと思います。一つのダムを建  
設するのにもさまざまな問題を解決し、地域  
の人達の理解・他の地域への影響などがない  
のか色々な事を考えていけないといけないと  
思いました。

おばあちゃんの家はダムの底にすぎまず、  
そのままありますが日本には他にもダムがた  
くさんあります。この話を聞いて、他の所で  
もやっぱり水没した村や地域があるのだらう  
なあと思いました。

私はお母さんから、  
「水を出しっぱなしにせず止めなさい。」  
とよく言われます。考えてみると、普段なに  
気なく使つてる水も無駄使いをしている時が  
あります。

世界には、水にこまっている人達もたくさ  
んいます。自分に何が出来るかわからないけ  
れど、身近な所から水を大切に使つていこう  
と思います。

## 山と水

私のおじいさんは村で山仕事をしている。私がおじいさんといっしょに山へ行くと、水がとても冷たい川や、岩と岩のすき間から流れ出しているわき水などが見られた。私はその水がどこから流れ出しているのか疑問に思った。

山には、それを作る土などが洪水や濁水などを起こりにくくする働きや、水をきれいに浄化したりする働きがある。私の家の近くの山に行くとき、きれいなわき水がチョロチョロと音をたてながらわき出ている。その水を家へ持ち帰って飲むと、水道水よりも甘みがあって、後味がとてもさわやかだった。味があるイメージのない水でもこんなにおいしいのかと、感心した。山は水をきれいにする自然のろ過装置だなあと、その偉大さに改めて感

黒滝村立黒滝中学校 二年

植田 倫子

動した。ところで、そのわき水はどこからわき出ているのか。おじいさんに聞いてみた。山の地表に太陽の光があたって小さな草がたくさん生えてくる。そして雨が降ると、水が草のくきをつたって地中の中へとしみわたっていく。さらにその後、霧が起ると草についているつゆがまた地中にしみわたって、山のふもとに流れ出すと教えてもらった。

ある日、大雨が降って家の前の川がザーザーと音をたてた。茶色くなった水が勢いよく流れ、増水していた。いつも通っている通学路でも少し土砂がくずれていて、車が通りにくくなったりした。私にとって雨はジメジメしている外にも行けないから、嫌なイメージがある。でも、雨は農作物にジョウロやホースなどで水をやるよりも、ずっとよくて、

畑の土の中にたくさんしみこむので、おじいさんにとつて雨が降ることは、とてもうれしいことらしい。なので、おじいさんは日照りが続く夏に、雨降れ！雨降れ！とずっと言っている。去年はおじいさんの願いもかなって、雨がたくさん降ったので、豊作となった。毎年家族が楽しみにしているトマトやトウモロコシやキュウリなどがたくさん実って、どれもとても水々しくておいしくいただいた。

最近では地球温暖化という言葉が耳にすることが増えた。気温が上昇して、世界の砂ばくがどんどん広がっているらしい。水を求めてたくさんの人々が数少ないオアシスの近くに住んでいる。しかし、その生活はとても厳しいものである。水をくみに行くのに何十キロメートルもの道のりを歩いたりとても大変である。こんな生活が日本では考えられるか。国土の四分の三が森林である日本では水が無くて困るといふことは、ほとんど無いと思う。だからといって水を使い過ぎると、いつか日本も、砂だらけの砂ばくに変わってしまうかもしれない。そうならないためには、

どういう工夫をすれば良いのか。私の家では、お風呂の中に人が入るとあふれてしまう水を洗面器に入れて、体を洗う時に使ったりして少しでもむだ使いが少なくなるようにしている。その他にも私達の身のまわりにも、節水する工夫はたくさんあると思う。

夏、暑くなると私達はよく川に入る。川の水はとても冷たく、清らかで魚がたくさん泳いでいる。町の人ばかりきれいな水の川を求めて毎年村へとやって来る。こんなきれいな川で毎日のように泳げる私達はとてもぜいたくで、めぐまれた環境にある。その恩返しとして、私達川上の人間は、この清らかな水を守るという意識を持つことが最も重要であると思う。人が生きていくのにはかかせない水なのだから。

## 農業と水

五月、今年も忙しい時期がやってきた。もう田植えである。田植えをするには、大量の水を田んぼに入れなければならない。その水は主に川から水路へそして田んぼへという形で水を入れていく。しかし、川の水はほかの田んぼの持ち主も使っている。つまり川の水だけでは十分に水を田んぼにためることができないのである。そんな時祖父や祖母は、「雨、降らんかのう。雨降ってくれたらうれしいのに。」  
とよく言う。僕も田んぼを手伝っているのもその気持ちはよく分かる。だから水不足の年は今年も田植えができるだろうかと心配になる。幸いにもその年は水不足だったが雨が降り、田植えをすることができた。まさに恵みの雨だった。

山添村立山添中学校 三年

奥中 俊寿

また僕の家では畑で野菜を作っている。よく水を使うのが作物を植えた直後と暑い夏の時期である。おいしい野菜を育てるには水が必ずいる。でも家の畑の近くには水道がない。そのため畑には、近所の人からもらった大きなタンクに水をため、作物の水やりに使っている。しかし、タンクの水は使ってゆくと少なくなってくるし、雨が降らないと、タンクに水がたまらない。そしてついに恐ろしいことが起きた。タンクの水がなくなり、雨が降らなかつたのである。畑の農作物はその姿を変えていった。赤い実を付け、空に向かって伸びていったトマトも、地面にはうように姿をくずしてゆき、キュウリの青々とした葉も黄色くしおれてしまった。  
祖母が言った。



「何これ降らんの、ここまで育てたのに、水やってもつやろか。」

そして畑から離れた所からじょうろに水を入れ、坂道を上って水やりをした。その年の夏野菜は例年と比べ食卓にならぶのが少なかった。僕は水が家庭の食事をこんなに左右するとは思ってもいなかった。その年は親せきの人から野菜をもらっていたけど、やっぱり自家製のものが一番だ。

最近、田んぼの横の川を見に行った。きれいだなあと思つて帰ろうとした瞬間、川のはしの方にぶくぶくと泡がたっていた。最初は水の泡かなと思つてさわってみた。しかし、ぬるつとした感触だった。におつてみると洗剤の泡だった。えっ、どうしてここにあるのと思つた。もう少し注意深く見ると、タバコの吸いながらや、ビニール袋までもが捨てられていた。なぜこんなことをしたの、誰がしたの、そう思いながら、僕は自然とそのゴミをビニール袋に回収した。川はきれいになつたけど、僕の心はすっきりしなかった。このゴミを捨てたのは間違ひなく人間だ。なぜ捨て

たのか、それは他分、めんどくさいからだと思ふ。僕もそんなことを時々思ふからである。しかしめんどくさいからといって川などに捨てて良いだろうか。それは絶対に良くないことだ。川の水は汚れるし、ゴミは増えるし、それが海に行くと海の生物にも影響をあたえるからだ。

人は水がなければ決して生きてゆけない。だから一人一人が平気でゴミを捨てない、お風呂の水や、米とぎ水を普段の生活に再利用する。そういったことをしてきれいな水を守つてゆかなければならない。一番大切なことは一人一人が意識して行動することである。

## 水に感謝を

みなさんは、水のことをどう思っていますか。わたしの家の前には、川が流れています。わたしは、小さいころから川と共に生きてきました。

でも最近川に空きカンや、タバコのすいがらなどが流れてきます。このままでは、川がよごれてしまうと思い、ゴミ拾いをするのにしました。夏は、冷たくて気持ちいい川に入っつてもふくろ満たんにゴミを拾いました。「またそんねんゴミ流れてくるんか。すごい量やな。でも全部拾ってくれたから、川が喜んでるわ。」

わたしは、祖父の言葉に笑顔を見せていました。でも、すごく心配なことがあります。毎日ゴミが流れてくるので、わたしがゴミ拾い

山添村立山添中学校 一年

尾谷 莉菜

をやらなくなったら、どうなるのかなと思いました。

わたしは、ゴミ拾いをして気付いたことがあります。それは、あるテレビを見ていたときです。その時、外国の水のことについて放送していました。外国では、水不足や水質汚染などの被害で水を安全に使用できないことを知りました。父に、

「世界には、水を安全に使用できない人がいるんやから。水を大切に使わなあかんぞ。」と言われて、ああそやなあと思いました。

世界では、約十一億人の人が安全な飲み水が使用できません。しかし日本は、百パーセントの人が安全な飲み水を飲み、料理をし、洗たくができます。でも川にゴミを流したりしています。世界には、安全な飲み水を飲め

ず苦しんでいる人たちがいるのに、どうして簡単にゴミをすてられるのかすごく疑問に思いました。

水はわたしたちの食にも大きな関係があります。今わたしたちの家では、田植えの最中ですがわたしは、毎年手伝いをしています。米作りには、必ず水が必要でです。だから水がないとおいしいお米が作れません。だから水に感謝し、お米を作ります。

わたしたちの生活に水は、絶対必要なものです。でもわたしは、身近に水があるからむだ使いをしたり、ゴミを捨てたりできると思っています。水は、あってあたり前だと思っています。水は、じゃ口をひねると出てくるものだから。水は、と思っていてと思います。でも、水は、動物にとっても植物にとっても、そしてわたしたちにとっても必要なものです。だから、もっと水のことを知ってもらいたい、水のことに関心をもってもらいたい。わたしはそう思います。

「水は、昔から大切に使われてんねんから、むだ使いは、したらあかんで。」

昔からわたしは、この言葉を言われ続けてきました。わたしは、水をむだ使いしたことこうかいしています。

わたしたちは、もっと水に感謝しなければなりません。水はつねにわたしたちの身近にあり、じゃ口をひねると必ず出てきます。でも水は、むだ使いをするためにあるのではありません。ゴミを捨てるためにあるのではありません。だから水に感謝する気持ちをもってもらいたいと思います。

水。それは、なくてはならないもの。

水。それは、生きていく中で必要なもの。

水。それは、感謝しなければならぬもの。またどこかで水を、むだ使いしている人があるのかな。

## 感謝するべき水

「こら、そんなんしたらあかんやん。」  
私は祖父に突然怒られて、フライパンを洗う手を止めた。祖父は排水口を指さし、「油、そのまま流したら、水汚くなって飲めへんようになるで。」  
と言った。私は疑問に思った。なぜこんな少量の油を排水口に流して飲料水が飲めなくなってしまうのか。「水の惑星」とも呼ばれる地球なら、大量の水があるだろう。そんな疑問に祖父は答えた。  
祖父が幼い頃、近くの川の水があふれて、橋が水につきり、洪水になったそうだった。一時避難して、洪水も収まったと思い、家にもどると、家の水が使えなくなったそうだった。水が使えないと不便なことはいっぱいで、飲み水はもちろん、食事、風呂、洗濯など、そのと

山添村立山添中学校 三年

田中 里奈

きは生活に困り果てたそうだった。そのとき祖父は身をもつて、水がととても大切だということに気付いたそうだった。  
「水は人を育ててくれる大事なもので。」  
と祖父は言った。祖父が水を汚すなどというのは、きつとそんな水に今も昔も感謝しているからだと思った。  
祖父のこの経験は、地球規模の問題でもある。水不足、水質汚染、洪水被害の増大は、多くの人々を悩ませているのだ。また、水のほとんどは海水なので、飲むことのできる水はほんのわずかでしかない。  
私は、自分を生かしてくれる水を汚し、有限で貴重な資源を何も考えずに無駄使いしていたことに気付き、初めて水のありがたさを知った。

先日、祖父は老人会で、近くにある「布目川」をきれいにする取り組みに参加した。川の周辺のゴミを撤去するものだった。この「布目川」は周辺の多くの地域の人々が活用する大切な川だ。だから、活用するかわりに川の水をきれいに保ち、守っていく。私はこれこそが、水との共存だと思った。太古の昔から変わることなく繰り返されている。水の大きな循環の中で、私たちは水を利用し、ときには水を汚してしまふ。しかし、こうしてゴミ拾いをしていく、地域の人々の姿は、まさに水と共存しようとしているといえる。それは、今はあまり起こらない水害を知っている老人の人々が、祖父と同じように水に感謝している証なのだ。

今の世の中を見渡すと、私たちは水を無駄に使っていると思う。私たちは、蛇口をひねれば美しい水を容易に手に入れられる便利な時代を生きていて、大切なことを忘れてきているのだ。水は私たちが支え、生かしてくれる。ならば、私たちが水を美しく保ち、無駄使いをなくすことが本当の水との共存ではないだ

ろうか。祖父らが生きてきた時代から大切にされてきた水を、私たちが受け継ぎ、次の世代へと引き継ぐ責任があるのだ。

そのためにも私たちは、節水や水の汚染を防ぐといった身近なことから始めていこう。その小さな一歩は、私たちが生かしてくれる水と共存し、感謝するということにきつとながるはずだと思う。

## 「水と私の町」

今から二十五年ほど前、私の住んでいる奈良県の王寺町という町が台風で水害にありました。私の母はその当時、高校二年生だったと言っていました。私の住んでいる地区は、大和川と葛下川という二つの川が近くを流れています。八月のある夜、台風が接近するにつれ、風よりも大雨がふって、大和川があふれそうになったらいいです。何度か心配して川の水を見に行っていたら、そのうちにサイレンが鳴って、近くの公民館に避難したそうです。そして一夜をすごしてしまつたそうです。その時の写真をスクラップブックにはっているのを見せてもらいました。私の今、くつろいでいる部屋、弟が寝ている部屋など一階すべての部屋がほんとうに、水につかつて

王寺町立王寺中学校 一年

槌屋 菜摘

いました。すごくおどろいたのと、少し信じられない気持ちでした。水がひいた後またすぐもう一つの台風が来て、二度つかつたそうです。そして水がひいた後がすごく大変だったということでした。暑い夏だったので、いろんな臭いやゴミが出て、家の前の道は、ゴミの山で歩けないくらいになつたらいいです。王寺駅も、水につかつたらしくゴムボートに乗っている人もいるくらいだったそうです。今では、いろんなビルや銀行や病院ができてとても便利な町になりました。ほとんど新しい人達が引越してきていますので、水害のことなど忘れられていくようですが、母は今でも「大雨が降るとこわいなあ」と言っています。水害があつてしばらくは、大雨が降ると一階に置いてあるものを二階に

上げたそうです。今では、堤防も大きくなつて、安心ですが決して忘れてはいけない事だと思ひます。水は私達の生活にはなくてはならないですが、もし水不足になれば、農作物や飲料水にも大きな影響をもたらします。しかし反面、大雨で災害や水の事故も毎年夏になるとテレビなどのニュースで見ます。とても複雑な思ひです。雨水は私たちの生活の飲料水となつています。水道のじゃ口からは限りなく無限の水が出ると思ひがちですが、水害とは全く逆のかんばつになることも考えないといけません。今私たちにできることと言へば歯をみがく時に水を出しっぱなしにしないことや、かみを洗う時にシャワーを止めるなど小さな事かもしれませんが一人一人が節水に気を付ける事で大きなものになると思ひます。私達の限りある資源は私達自身が守つていかなないとだめだと思ひます。

## 大切な水

毎年、田植えが始まる頃、私は楽しみにしていることがあります。家族と田植えに行くときは、必ずといっていいほど、網とバケツを持っていきます。川をじつとのぞきこむとメダカの尾びれが水面にきらきらと光っているのです。その姿に私と私の弟は目を輝かせながらメダカを追うのです。これが、小さい頃からの私の楽しみでした。

しかし、年々メダカの数が減少してきているように思います。いつもたくさんのメダカが群れをつくって泳いでいた川をのぞいてみると、「こんなのに。」と思うほど、少なくなっています。川をながめながら原因を考えていると、あることに気がつきました。それは、洗剤の泡、油のかたまりが流れてきていることです。いつもは気にし

山添村立山添中学校 三年

中矢 知沙

なかつたことが、もしかすると、メダカを苦しめてしまっているのかもしれない。と思うようになってきたのです。また、農薬を使っていることも一つの原因ではないかと思うようになったのです。田植えの仕事を手伝っていると、農薬は必ずといっていいぐらい使います。また、洗剤や油も、それぞれ使うことがあります。これが、私たちの村のきれいな川を汚し始めている大きな原因なのかもしれません。

水の汚れで苦しんでいるのはメダカだけではなくありません。同時に、サワガニや、ホタルも年々少なくなっているように思います。特にホタルの減少は全国的にも問題となつているのです。

幼い頃、私は母といっしょに夜によく田ん



ぼの近くまでホタルを見に行つたことを覚えて  
います。車のライトでチカチカすると、た  
くさんのホタルがあちらこちらから飛び回  
るのです。あのホタルのほのかな光が田んぼ  
一面に広がっていた光景は忘れられません。

「ホタルがたくさんいるところは、きれいな  
水があるところ」とよく母に教えられたこと  
を覚えています。ということとは、ホタルの数  
が減少しているのはきれいな水がなくなつて  
きていると言えるのです。ホタルを守るため  
に全国でさまざまな取り組みが行われていま  
す。たとえば、ホタルの生態系や、住みやす  
い環境を守るため、ホタルの移植の指針を採  
択している地域もあるそうです。また、ある  
地域では、ホタルを呼び戻すためにホタルの  
住みやすい環境づくりや配慮したりしている  
ところもあるのです。このような試みが未来  
へとつながっていくことを私は信じています。  
私の住んでいる山添村は、まだそんな心配  
はいりません。しかし油断はできません。水  
は汚そうと思えばいくらでも人間はできます。  
しかし、そこから私たちは、メダカやサワガ

ニやホタルなどの生き物を守らなければなり  
ません。大好きだった、メダカやホタルのい  
るきれいな川を、いつまでもきれいなまま、  
メダカやホタルをいつになつても追いかけら  
れる環境を作っていきたいと思えます。

そして、私たちの未来の夏は、川には、た  
くさんのメダカの学校があり、夜には、一面  
に、黄い光が飛び回っていることを願いたい  
と思えます。

水は、生き物にとって大切な資源です。そ  
んな水を人間の手で汚してはいけません。人  
間の手で守らなければならぬのです。

## 未来に水色の贈り物

白い画用紙に書かれた、茶色い水をすくいはほ笑む一人の少年の絵。私はそれを見てから改めて、美しい水を使って生活できているありがたさを感じ、水に対しての見方が変わったように思います。

私の家では農業をしています。私の家の近くに村で一番大きい名張川という川も流れています。小さなころから私は、季節の移り変わりを肌で感じて育ってきました。暑い季節がやって来ると畑は忙しくなります。そこで私の役割は、水やりです。朝と夕方に一回ずつやるのですが、枯れないように水をやり続けるのは、とても大変です。夕方ホースで水やりをしていると母が来てこう言いました。「こうして水をあげていると野菜たちの声が聞こえてこない。水を使う権利は皆平等

山添村立山添中学校 三年

山本 みか

で、水を必要としているのは私たち人間だけではないの。」と。  
この言葉を聞いて、蛇口をひねり、自由に水を使っている暮らしを改めて見つめ直すことができました。

私たちが使える水は地球上の〇・〇一%でしかありません。今私たちに求められているのは、その水をいかに大切に使うかです。水は繰り返し利用することができません。そう思った私は、水やりの水をドラム缶に雨水などをためて利用しようと思いました。その姿を見て、家族も水を有効に使うことに協力してくれました。その次の日からは、水の出っぱなしの音は聞こえなくなりましたし、台所に油や食べ残しのスープを流さないようになりました。こういった小さなことから始めた今では、家族全員で水の無駄使いに気を付けるよ

うになりました。

私は昨年水道管の工事のため、一日の断水を経験しました。水が止まる前日に、お風呂一杯分の水と、一罌のペットボトル7本に水をため断水に備えました。次の日起きて顔を洗おうと洗面場の蛇口をひねり、水が止まったということを感じました。いつも当たり前に使っている水なので、ついそのありがたさを私たちは忘れがちになります。しかし、蛇口をひねり私たちが水を使うまでには、多くの人の手や自然の力によって支えられています。そう考えると、私たちは一滴の水にも感謝して大切に使うことが必要となります。祖父は名張川で鮎釣りをしている人を見ながら言っていました。

「昔は、みんな夏になると名張川で泳ぐのを楽しみにしていたね。よく泳いだものだ。しかし今では、もうそんなことはできないよ。」確かに名張川は私の小さな時とはちがって、澄んだ色を失い油やゴミも浮くようになってしまいました。それは私たち人間が必要以上に便利な生活を求めた結果なのです。

私たち人間はもとより、この地球上の全ての者が水を必要とし生きています。その水を人間の責任で汚すことは決して許されません。私は川岸に浮いたゴミをクリーンキャンペーンの時に拾うようになりました。私は昔の澄んだ色の名張川を取り戻すまで続けようと思います。

水は雨となり大地となり海となって地球を支えています。しかし人間はその道筋を変え長い旅をした水をやっと手の届くものにできるのです。一人一人がそのことに気づき水を汚すことなく自然に返さなければなりません。水は変わりゆく地球を人類が誕生するよりもっと前から見てきました。私たちはそのありがたさを感じながら動物や植物たちと共有することが大切です。私はこの世界に生きる人にとつての水が水色で美しいものであってほしいです。私たちは水の惑星に生きています。またこの星でしか生きていけません。地球に生きる一員として、未来に美しい水を残す第一歩を踏み出すことが私たち人間の使命です。

## 水よ、ありがとう

山添村立山添中学校 二年

畑中 友里

「ただいま。」

私は家に帰って、いつものように洗面所で手を洗った。(あれ、いつもの水の色とちがう)と、不思議に思った。しかし、この水は水道から出ているのだから汚れているはずがない。私は目の錯覚だと思った。

「うわー、何だこれ。」

お風呂場から妹の驚いた声が響き渡ってきた。すぐに

「どうしたん。」

そう言って私はとんで行った。するとお風呂に入っている水が、まるでコーヒーのような茶色い色に濁ってしまった。考えたみると私が手を洗った水も、このような茶色い水だった。なぜ、清い水ではなくなってしまったのだろうか。私は母に聞いた。母はこ

う言った。

「浄水場でなんかあつてんで。」

浄水場は汚れている水を消毒してきれいな水に変える場所だ。そこで私は浄水場で異変が起きたら大変なことになってしまおうと気付いたのである。

家中の水道から出る水が濁ってしまうと飲み水がなくなってしまう。幸い、私の家の井戸水があつたおかげでこの危機は乗りこえることができた。

私たち日本人は蛇口をひねれば無色透明の清らかな水が出ることを当たり前のようになっている。しかし、世界中がそうではない。安全な飲料水を得ることのできない人もいるということを忘れてはいけないのだ。

私の家は毎年五月に田植えを行う。祖母はこの時期になると天気予報を真剣に見る。

「雨、降ってくれるといいねんけど。」  
と、つぶやいた。雨は天の恵みであり、苗を

成長させてくれる。そして米ができる。水がないと米ができない。水があるのだからこそ、私は米を食べて生きることができなのだ。

もし、この世に「水」という物質が存在していなければ、どうなっていただろう。生物が誕生していなかった。だから今、ここにいる私は存在しないことになる。生物の源である「水」はこれからも、その先ずっと存在していないといけないのだ。

水は海から蒸発して雲となり、雨や雪になって地上に降る。そして川となり、再び海へ戻る。このように水は、繰り返し利用することができるとができる。

私の家では少しの水でも大切にしている。例えばお風呂の湯を洗濯に使ったり、米のどぎ汁を植物にあげたりしている。みんながこうすることで、水を守っていくことができるのだ。今、存在している水を汚さないように私たちには何ができるのか。水を大切に使うていくにはどうすればよいのか。このような

ことをしつかりと考えていける人が多ければ存在している水も消えはしないだろう。

現在にいたるまで、生物の命を支えてくれた水に感謝しなければならぬ。暑い場所ですら動物も、水を飲んで生きている。私たちが人間も運動した後、水を飲んで生きている。水がないと地球上の生物は生きていけない。

「このような貴重である「水」に今、私は「ありがとう」と言いたい。」

## 水の事実

曾爾村立曾爾中学校 三年

橋詰 奈央

「もー。また水出しっぱなしにして使ってる。」

母が食器洗いを手伝っていた私に言った。私はよく夕食後、食器洗いを手伝う。だが、いつも水を出しっぱなしにして洗う。その方が早く食器洗いが終わるからだ。

「もったいないやろ。水道代かって、ただと違うねんで。」

母にそう言われ、しぶしぶ私は蛇口を閉める。やはり、お金のことを言われると、水もムダにはできない。最近は物価も上がってきており、お金を節約する時代だ。我が家も節約をよくする。だから母に言われた時は、お金がかかるからという理由だけで水を大切にしなければならぬという勝手な解釈をしていた。

数日後、学習能力のない私はまた同じことをした。

「水道代ただと違うって何べん言ったら分かるの。」

母の怒声がとんだ。長い説教が始まる。母に怒られている間、私はふと思つた。もったいないのはお金だけなのか？水、安全な水つてたくさんあるのか？水はもったいなくないのだろうか？疑問に感じた私は世界にある安全な水について調べてみた。

すると、次のようなことが分かった。世界中には安全な水を使える国など数えるくらいしかないこと。日本はその中でも安全な水を使っている方であるということ。地球には一見たくさんある水があるようだが、実際飲み水や安全に使える水は極わずかだ。世界の人々は工場から出る化学物質で水が汚染されたり、

洪水や水不足が原因で安全な水が使えないそう  
うだ。私はこの事実を知った時ショックを受  
けた。この世界にきれいな水は思っていたよ  
りも少なかったからだ。さらに調べていくと、  
世界では水が原因で死んでいく人の数が最も  
多いということが分かった。八秒に一人の子  
供が水が原因で死んでいくという。私は後悔  
した。今まで食器洗いの際、ムダにしてきた  
水でどれだけの子供達の命を救えることがで  
きただろう。食器洗いの時以外の場面でも水  
をムダにしてきた。私はしばらく反省した。  
水を安易に使える環境において、それをごく当  
たり前のように何も考えもしないで水を使っ  
ていた自分を恥じた。

日本は水が豊富だから、水なんてただみた  
いなものだと思っっている人も多いと思う。現  
に私もそうだった。確かに日本は水に関して  
はよい環境に恵まれていて。だが、世界を見  
てみると、安全な水を使えない国がほとんど  
だ。だから、単に、水を使うというのではな  
く、そういうことを考え、日本に住んで安全  
に水を使うことができることに感謝の気持を

付けて使わなければならぬと思う。そして、  
少しでも水のムダを減らしていくべきだ。

今まで、様々な場面で水をムダにしてきた  
私だが、水のことに関して調べてみて、水に  
対しての視点がガラリと変わった。コップ一  
杯の水でも、命が救えるという重さを感じ、  
これを使うことができることにありがたさを  
忘れてはならない。私達は安全な水がたくさ  
んあって生きていられる。その事実を心に刻  
み、感謝しながら、これからは水を大切に使  
っていかうと思う。そしてその事実を多くの  
人が知って考えるべきだと思う。

「お母さん、食器洗い手伝わして。今度はち  
やんと水大切に作るから。そうそう、水って  
むっちゃ大事やねんで。なぜかというとな  
…。」

私は楽しくおしゃべりをし、水をムダにし  
ないよう食器洗いを手伝った。水に対する感  
謝の気持ちもつけながら。

## 第31回「全日本中学生水の作文コンクール」奈良県大会実施要領

### 1 目的

「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的とする。

### 2 主催等

主 催 奈良県  
後 援 奈良県教育委員会  
奈良県中学校長会

### 3 実施内容

(1) 名 称 第31回「全日本中学生水の作文コンクール」奈良県大会

(2) 対 象 奈良県内中学生（中学生と同じ学齢のものを含みます。）

(3) テーマ 「水について考える」（題名は自由）

水は、地球上のあらゆる生命の源です。また、水は、自然の力によって循環する資源です。

水は、この循環の中で私たちの毎日の暮らしや、農業、工業などの産業活動を支える重要な資源となっているほか、地域の個性ある豊かな水辺環境や文化の形成にも大きな役割を果たしています。この重要な資源である水を私たちの暮らしの中で不自由なく使えるように、ダムをつくって水を貯めたり、水をきれいにし各家庭に配るなど様々な努力がなされています。

この機会に、水についての理解を深めるとともに、この限りある貴重な水資源を未来に引き継ぐため、日常生活での体験や両親、先生から学び聞いた話などをもとに、いま一度水を見つめ「水について」考えてみましょう。

(題名の例) 「大切な水」、「命を支える水」、「水没した村」  
「ダムの恩恵」、「水と暮らし」、「水不足を体験して」  
「水源を守る」、「水に感謝」、「水のある風景」 等

(4) 原 稿 400字詰原稿用紙4枚以内で日本語により表記されたものに限ります。(個人作品に限ります。)

(5) 応募方法 作文には、本文の前に題名・学校名(ふりがな)・学年・氏名(ふりがな)・性別を記入し、(7)の宛先に送付してください。

(6) 募集期間 平成21年1月5日(月)～5月15日(金)到着分有効

(7) 送付先 〒630-8501  
奈良市登大路町30番地  
奈良県地域振興部資源調整課水資源計画係

### 4 審査



### (1) 予備審査

県内の中学生から応募された作品の中から県企画部資源調整課において、県審査対象作品として30編程度を決定します。

### (2) 県審査

① 県審査は、奈良県地域振興部長が委嘱した者で構成される県審査会において予備審査で選出された作品を対象に審査します。

県審査会：奈良県地域振興部資源調整課長  
奈良県健康安全局消費・生活安全課長  
奈良県水道局総務課長  
奈良県教育委員会学校教育課長  
奈良県中学校長会会長

② 県審査は、優秀賞3編、入選10編程度の入賞作品を決定するものとし、うち優秀賞3編の作品については、奈良県代表として、国土交通省主催の「全日本中学生水の作文コンクール」全国大会に応募するものとします。

③ 淀川流域から応募された作品、または同流域に関わる内容を含む作品のうち3編程度を「琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール」の流域賞候補作品として推薦するものとします。

### (3) 賞及び賞品

- |       |         |       |
|-------|---------|-------|
| ① 優秀賞 | (3名)    | 賞状、副賞 |
| ② 入選  | (10名程度) | 賞状、副賞 |
| ③ 参加賞 | (応募者全員) |       |

### (4) 発表

入賞者の発表は、7月上旬頃当該学校長を通じ本人に通知します。

### (5) 著作権等

- ① 応募作品は、自作の未発表のものに限ります。
- ② 応募作品の返却は、行いません。
- ③ 入賞作品の著作権は、奈良県に帰属します。  
(但し、国土交通省に応募する作品は除きます。)

### 5 問い合わせ先

〒630-8501

奈良市登大路町30番地

奈良県地域振興部資源調整課水資源計画係

TEL 0742-27-8489(直通)

FAX 0742-27-6395

## 琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実施要領

### 1 趣 旨

琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実行委員会が同実行委員会会則に基づき行う琵琶湖・淀川流域水の作文コンクールについては、この要領に基づき行う。

### 2 実施内容

「水の週間」行事の一環として実施される「全日本中学生水の作文コンクール」の応募作文のうち、各府県から推薦のあった作文について、その内容が特に優秀と認められるものを本要領の定めるところにより表彰する。

### 3 表彰の種類等

表彰は、流域賞各府県1点とし、賞状による会長表彰を行う。

この場合においては、実行委員会の議を経て副賞を添えることができる。

### 4 入賞発表及び表彰

流域賞は、入賞発表を行い、作文の応募があった府県における表彰方法により表彰を行うものとする。

### 5 選考基準

「水について考える」のテーマにふさわしく、日常の生活体験や学習を通じて得られた内容で次の要件を満たすものであること、及び当該作文の表彰により「流域」の視点の啓発に資すると認められるものであること、を考慮して選考するものとする。

- ①水の貴重さ、水資源開発の重要性等が適切にとらえられていること。
- ②将来の夢、提案等が中学生らしくまとめられていること。
- ③抽象的、観念的なものでないこと。

### 6 その他

作文の著作権等の取り扱いについては、当該作文が応募された府県における募集要領等

**奈良県地域振興部資源調整課**

**〒630-8501 奈良市登大路町30**

**TEL 0742-27-8489 FAX 0742-27-6395**

ホームページ ; [http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-6789.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-6789.htm)